

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200590		
法人名	社会福祉法人 希望の里		
事業所名	グループホーム いこいの郷		
所在地	埼玉県児玉郡美里町大字白石2321-2		
自己評価作成日	平成23年10月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境を活かし、散歩や外気浴、農園作業等を行えるだけ屋外に出て体を動かす事を大切にしています。室内においても体操やゲーム等レクリエーションを通し、楽しみながら体力・機能維持に繋がる様に努めています。制作・趣味活動も行い縫物や貼り絵、塗り絵や習字等、作品展に出品したり、施設内に飾られています。敷地内には、特養・デイサ・ビス・グループホーム・ゲストハウス等の併設施設があり、色々な行事を合同で開催するだけでなく、日常的に「ご近所付き合い」の様な感覚で行き来をしています。「一人一人の立場に立って支援させていただきます」をいこいの郷の理念とし、利用者様一人一人の状態を職員全員が理解し、それぞれが望む生活の実現に向けて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所理念が職員に徹底され、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう利用者一人ひとりを大切にしたケアが提供されている。レクリエーション活動では書道・裁縫・貼り絵など利用者の好みを尊重し、個々に楽しませている。又、稲わらを使っての正月のお飾りや紙粘土での表れづくり、ちりめん細工による季節の壁飾りづくり、その他、園芸や野菜づくりなど、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に沿い、明るく充実した日々を過ごされるよう支援されている。
 ・平成22年度の目標達成計画については、5月に自治会長や地域住民の参加・協力を得て防災訓練を実施し、目標計画を達成されている。又、東日本大震災の教訓を活かし、定期訓練のほか地震対策として、利用者が安全且つ速やかに避難できる為の避難・誘導訓練の追加を計画し、実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を基に事業所独自の理念として「利用者様一人一人の立場に立って支援させて頂きます」を実践し話し合いの際理念の再確認をしている。玄関等に掲示し、職員全員が常に自覚できる様にしている。	職員全員で意見を出し合って創られた理念のもと、管理者と職員はそれらを共有し、利用者一人ひとりの思いや意向、持てる力を大切にし、利用者が笑顔で充実した日々を過ごされるよう実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花火大会には敷地を開放し、地域の方を招待しています。小学校の運動会の見学や中学生の社会体験学習の受け入れ、作品展への出品や町の清掃活動に参加している。	日課の散歩や買物などの際には地域の人たちと挨拶を交わされるほか、小学生の歌や朗読の発表会や運動会での交流、中学生の社会体験の受け入れ、地域文化祭への作品出展や清掃活動への参加等、利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう基盤づくりに取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回グループホーム責任者、利用者様及びご家族様、総括施設長、地域包括支援センターの方、老人会会長様等を交え活動報告や意見交換を行いサービス向上に向け話し合いがもたれている。	定期的に開催され、事業所からの報告のほか、地震対策(連絡手段の検討・家具転倒防止策・職員研修)や認知症とその介護状況、外部評価結果と課題解決への取り組みなどの話し合いが持たれ、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方々とは報告や相談、研修の受講案内やその他資料等いただいている。事業所便りの配布も行い、情報の共有等連携を取りながら進めている。	町担当者との報告・連絡・相談時、その他町主催のセミナー時などにコミュニケーションを図るほか、毎月のホーム便りを届け、ケアサービスの取り組みを伝えるなど、連携・協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、身体拘束をしないケアを全ての職員に徹底している。	身体拘束廃止委員会を中心に研修が行われ、全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組まれている。外出願望の強い利用者についても、制止することなく、職員が一緒に出かけるなど、安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるよう実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待をしない・見過ごさないケアを全ての職員に徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度については研修の中で学習している。また、成年後見人の必要な方にはNPO法人三松会との話し合いのもとに利用して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の内容を詳しく説明すると共に十分に納得して頂いた上で契約を結んでいる。入居後も不安や疑問点は無いか尋ねたり生活状況の報告を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関する窓口をホーム内、公的共に設置し苦情が寄せられた時には速やかに対応策を検討しサービス改善に努めている。面会時に御家族様の意見を聞くようにし苦情になる前に解決できる様に努めている。	利用者とは、日頃の関わりの中で、家族については運営推進会議や面会時などで意見・要望の聴き取りを行なっている。意見や要望については職員間で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に意見や提案を聞く機会を設けている。また、日々の業務の中で感じた事等を率直に言える職場の雰囲気を作っている。	定例会議や個別面談などで意見・提案を聴きとられている。又、言いやすい環境がつけられ、活発な意見・提案が具体化され、個別ケアや外出企画案などサービス向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回目標管理シートに目標を定め自己評価・上司評価を行っている。日常的に職員からの意見を取り入れやりがいのある職場作り、環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はそれぞれの段階に応じ行い、その内容は研修ファイルからいつでも誰でも閲覧できる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	敷地内のグループホームでは交流の機会を持ち、相互訪問や共同での行事等を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や入院先に出向き、面談する様にしている。また、本人の話を聞く機会を積極的に持ち、気持ちを受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様と話す機会を設け、不安や要望等聞き安心してサービスを利用して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況に応じてケアの方向性を考え、利用者様と御家族様が必要としている支援、サービスの提供ができる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と利用者様という関係だけでなく、時には家族の様に接している。また、利用者様から学ぶ事も多くお互いに思いやり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者様の状況や状態を報告し、御家族様と相談しながら対応している。共に悩んだり、喜びを分かち合いながらより良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの深い場所や人との関係は、御家族様を通して途切れない様に支援している。また、手紙や電話のやり取りや冠婚葬祭、家族旅行などにも参加して頂いています。	家族の協力を得ての墓参り、友人・知人に会いに出かけられるほか、デイサービスなど関連施設でも友人・知人と歓談されたり、レクリエーション活動を一緒に楽しまれている。又、手紙のやり取りや電話の取り次ぎ、馴染みの店での買物など、関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題を提供したり、レクリエーションや散歩等を通じてコミュニケーションをとれる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要に応じてお手伝いさせていただき努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、御家族様の要望を聞いたり、普段の会話の中からも汲み取るよう心掛け、ニーズを把握する様に努めている。また、それに応えられるよう取り組んでいる。	現在、特に把握が困難な利用者はおらず、日々の関わりの中で声を掛け、思いや意向を把握するよう努め、利用者本位に対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、利用者様や御家族様からこれまでの生活歴、利用サービス等を細かく聞き、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らし方や家族関係、生活歴等をふまえ生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々生活をしている中で利用者様や御家族様の要望等を聞いたり、職員や関係者等の意見も参考にしケアの方向性を考え介護計画を作成している。	利用者や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聴きとり、医師や看護師を含む関係する職員全員で意見交換を行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄や水分摂取等もケース記録に記入し、日常生活の様子や体調の変化、気付き等も細かく書き込み常に職員で共有している。決定事項やケアの変更等は連絡帳やケア会議で報告し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や理髪、御家族様の状態に応じて通院サービスを行ったり臨機応変な対応ができる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の作品展に出品したり、小・中学生の慰問や体験学習の受け入れ、消防署職員の指導による消防訓練の実施、図書館や公園の利用等地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の回診、歯科の週1回の訪問診療も行っている。また、専門的な診察、治療が必要な場合等、利用者様や御家族様の希望している医療機関にも御家族様の協力のもと受診できる様支援している。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に看護師が勤務しており、常に利用者様の状態を報告・連絡・相談し回診の際も立ち会い状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族様や入院先の医療機関とは、常に連絡を取り合い話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも御家族様に重度化や看取りに対応できる旨を伝えていきます。また、主治医や看護師、御家族様と連携しチームとして希望に沿った支援ができる様取り組んでいます。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後の対応も早い段階から話し合いを行ない、意思確認書を取り交わし、希望に沿った最大限のケアに向けた取り組みが行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え研修を行っている。連絡体制も定期的確認し合い電話の近くに掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。その際、近隣協力者の方も参加して合同訓練を行っている。また、消防訓練とは別に地震等を想定し非難訓練を行っている。	避難・通報・初期消火などの訓練を定期的に行なっている。又、夜間の発生を想定しての訓練や地域住民との合同訓練も行なわれている。その他、東日本大震災の教訓を活かし、定期訓練のほかに地震対策としての避難誘導訓練の追加を計画し、実践されている。	消防法に基づく、火災発生時の職員の役割分担は整備されているが、事業所特性を踏まえ、利用者の定時薬やケース記録など非常持出品についての役割分担なども明確にすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の誇りやプライバシーを損ねない様にさりげない介助や言葉掛けを心掛けている。また、個人情報の取り扱いについては十分な注意を払うよう徹底している。	利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの希望の表出や自己決定が出来る様に利用者様本人が選ぶ場面を作っている。また、個々の状態に応じた説明を行いながら、自然と自己決定が出来る様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者様のペースを尊重し、希望を取り入れながら毎日の生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の理髪やヘアカラー、衣料品の買い物支援等希望に応じ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り食事の準備や下ごしらえ後片付け等一緒に行えるよう努めている。季節の食材や行事食、希望食も取り入れている。また、外食や他棟と合同の食事会等行い楽しんで頂ける様支援している。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備・後片付けなど職員と共に行っている。又、利用者の希望に沿った行事食メニュー、クラブやお団子などのおやつ作り、バーベキューや事業所合同のランチバイキング、外食など楽しまれている。その他、ラテッシュなど野菜作りもされ、新鮮な野菜が食事に提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーは献立表に記載されており、食事摂取量は把握している。水分摂取は毎回チェックしている。体調不良等で食事・水分摂取量が減少している時は、細かく記録し対応を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自菌の方も義菌の方も毎食後に歯磨きをしている。義菌の方は毎晩お預かりして洗浄・消毒している。また、希望により訪問歯科を受診し定期的に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせて誘導や見守りを行い、排泄の支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品や水分を十分に摂取して頂ける様子を配っている。また、毎日の生活の中に散歩や体操を組み込み、体を動かせる様配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回の入浴を行っているが、入浴日以外でも利用者様の希望や必要に応じて行っている。	入浴日と時間は設定されているが、できる範囲で利用者の希望に沿い、好きな時間に入浴されるよう支援されている。又、ゆず湯やしょうぶ湯など季節湯も楽しめるほか、利用者個々の力に合わせ、職員2人での介助体制をとるなど安全面にも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休める様に、日中は出来るだけ体を動かすように支援している。また、お部屋のレイアウトや照明、温度・湿度も調節して安眠確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬について職員に説明を行い理解し把握できる様努めている。また、処方箋をファイルしいつでも確認できる様になっている。医師の指示通り服薬を行い、常に状態の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族様からの情報や情報提供書等からの生活歴を把握し、それぞれ得意とする事を生活に取り入れ楽しめる様健康状態を考慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や農園作業、外食や買い物、ドライブ等屋外に出掛ける機会を作っている。各種芸能鑑賞会等、利用者様の楽しみとなる企画を実施している。	散歩や外気浴、畑仕事を日課とされているほか、利用者の希望に沿い、桜やチューリップなど季節の花を楽しみにドライブや買物などに出かけられている。その他、地域で行われる恒例の歌謡ショーや落語会などにも出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者様ごとに御家族様の了承を得た上で、ホームで管理している。外出や買い物の際は利用者様にお渡しし、使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話の利用や手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者様と一緒に掃除をしたり、換気を行っている。オープンキッチンになっている為、食事の匂いや調理の音を感じて頂ける。また、季節の花を飾ったり季節感のある生活を提供している。	利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、室温・音・採光などきめ細かな配慮がとられている。又、折り紙や切り絵、ちりめん細工などの季節感ある飾付けがなされ、明るく清潔感のある共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一角にソファを置いたり、和室を利用したりしている。玄関テラスにも椅子を置き、いつでも自由に外気浴ができる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた家具や思い出の品を持ち込んで頂き、安心して過して頂ける居室作りをしている。	使い慣れた馴染みのタンス・椅子等の家具やテレビ等が持ち込まれているほか、家族の写真や裁縫道具等も持ち込まれ、ゆっくり落ち着いて生活できるよう工夫されている。又、体力維持を兼ね毎朝、掃き掃除にモップ掛け、窓ふきなど、清潔維持に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人の写真を居室前に飾ったり、ネームプレートを付けている。また、トイレも表示をし分かりやすくしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム いこいの郷

目標達成計画

作成日: 平成 23年 12月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の、事業所の特性を踏まえた利用者の定時薬やケース記録など、非常持ち出し品についての役割分担などが明確になっていない。	災害時対応マニュアルの作成。	非常時持ち出し品リストの作成と、出勤職員人数 別災害(地震など風水害)対応マニュアルを作成し、職員周知の事とする。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。